

地域の未来とごみ処分プロジェクト(仮)2016 年度 SEED PLAN

2030 年長期目標（インパクト）

核燃料サイクル計画の無期限停止、あるいは中止を実現します。

原発運転と原発事故によって発生した放射性廃棄物の最終処分・管理方法を決めるための、公正かつ民主的な仕組みをつくります。

2016 年短期目標（アウトカム）

- ①核燃料サイクル計画を推し進める法律・政策の見直しを実現します。日米原子力協定の改悪を防ぎます。
- ②福島原発事故由来の放射性廃棄物に関して、国が「処分方法に対する基準の見直し」、「適切な管理体制」「そのための人員と予算の確保」を行う事を目指します。
- ③福島県二本松市・青森県六ヶ所村等の農家やまちづくりに係る若者との提携の開始により、支援者・協力者を 30 名増やします。
- ④エネルギーや復興に関連する問題を幅広い市民に伝え、復興支援の為に活動する団体の取り組みが、継続的に支援される状態を目指します。

実行手段（アクティビティ・アウトプット）

- ・原子力政策に関するお金の流れを可視化し、わかりやすく伝えるツールを作成。
- ・ツアー報告会や各種セミナー開催、他団体への賛同などを通じた世論喚起。
- ・農村部への移住に関する東京都、福島県、青森県の制度、財政、長期目標の把握。
- ・青森県・福島県へのツアーを毎年 1 回以上行い、現場の課題と展望を共有。
- ・ASJ の会員になると提携農家から野菜が届く、ツアーに割引料金で参加できる、などのコンテンツを検討。
- ・復興の集い「結イレブン」を毎月定期開催し、参加者延べ 300 名を目指す。

ロジックモデル

投入 (インプット)	助成金、チームボランティア・事務局の労力、他の運営団体の協力
活動 (アクティビティ)	知識習得・ロジック作り、広報（F B 投稿、セミナー）、ネットワーク形成（結イレブンの運営、e-shift への参画）、現地ツアーの開催
結果 (アウトプット)	セミナー来場者数、ウェブアクセス数、F B の「いいね」数、関係省庁主催の委員会への出席数、結イレブン参加者数
成果 (アウトカム)	メディア掲載件数、反響（定性）、行政まちづくり課等の議論・検討の誘発（定性）、チームメンバーの増加
波及効果 (インパクト)	原発再稼働及び核燃料サイクル計画の再検討を国が明示する事を求める世論の形成、使用済み核燃料（および高レベル放射性廃棄物）の最終処分・管理方法を決めるための委員会等の設置、持続可能な地域経済の進展